

# 塩

ひとの  
もの  
こと  
の  
つながり

田舎の人は、冬の燃料費を気にしないようです。昔は薪が冬の燃料で、薪は自分の山から取ってくるので無料でした。その感覚が残っているようです。一方、エアコンは昔はなかったもので、もったいない（節約）という感覚があるようです。そう考えると、もう一度薪などの再生可能エネルギーを導入すると、グッとエコな生活になります。

高浜には、丹後街道沿いのような町並みが残っている一方、施設のデザインがバラバラ。若い大工達と高浜らしい建築を増やしていきたい。



ハイテクによるエコと昔ながらの里の暮らし。エコと里を合わせた造語が「高浜エコ里」です。この会場のように、電気自動車と町屋の組み合わせは、まさにエコと里ですね。この両者があることが「高浜らしい」と思います。

今回試乗できた超小型の電気自動車など小さい車は、立ち話が生まれやすい。店先でちょっとした会話が人のつながりを生む。大きな車は、そうしたコミュニケーションの機会を失わせている。

高浜の良いところは、海も山も色々な暮らしがあって、それをみんなが楽しんでいること。「暮らし」を支えるコミュニティづくりのためにこうした旧塩屋のような空間を活用してほしい。

## 高浜の人は「暮らし」が好き。

高浜は、海・町・農地・山がとても近く、しかもそれが連続している。こんな町は他にない。500m圏の歩いて暮らせる範囲に、海も町も農地も山も入る。ある路地からは海が見えるし、反対側には田んぼや山が見える。外から見れば、憧れのライフエリアになる。



地元4人によるディスカッション



ゲスト4人によるディスカッション



超小型電気自動車の試乗



交流会



演奏会

交流会&演奏会とても楽しかったです。ありがとうございました。

シンポジウムは、そんな問いかけから始まりました。海や山、魚が美味しいというの魅力。だけど何より高浜の人は、「ここで『暮らしが好き』という人が多い。海・町・農地・山がサンドイッチされたような高浜での暮らし。そこで様々なつながりを築きながら生活しています。きっと、こんな贅沢な場所は他にないでしょう。」

まちづくりは、楽しんでやれないと続かない。「楽しむ」ことがとても大切です。そして、人の仕組みとお金の仕組みの2つの仕組みが必要で、高浜でもトラスト制度（寄付やボランティアなど）みんなで自然環境や建物を守る（仕組み）など、人とお金の仕組みを検討中です。是非実現してほしいと思います。

この旧塩屋では、移住者のための空き屋情報バンクや、若い人達がどんなスキルを持っているかがわかる人材情報を発信したら面白い。また、来訪者が休憩できるコミュニティカフェがあり、町屋住まいを考えている方のためのゲストハウスを作りたい。若手の大工が無料相談にのってもらえるようなことがあってもいいと思う。

**ご来場、ご協力 ありがとうございます**  
雪の降る中、たくさんの方に足をお運びいただき、ありがとうございました。シンポジウムを開催するにあたっては、改修・展示、当日の屋台・交流会等に、地域の方々から大変多くのご協力をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

**高浜の魅力はどこですか**  
小さなことを元気にやるプロセスが大切  
まずは自分たちではじめる

**高浜の魅力は楽しんでやること 仕組みをつくること**  
旧塩屋の活用へ

屋台のみなさん。とても美味しかったです。ありがとうございました。



ホルモンうどん 若狭たかはま鮓 でっちばん・たご焼きそば たいやき 曙バーガー

DATA  
高浜らしいまちづくりを考えるシンポジウム  
「ひと・もの・ことつながり」  
平成25年3月2日(土) 13:00~19:00  
場所: 旧塩屋

発行/都市計画マスタープラン戦略会議勉強会(高浜町建設整備課内)  
〒919-2292 福井県大飯郡高浜町宮崎 71-7-1  
TEL 0770-72-7702



ひと ひとの心の有り様。考え方。まちへの思い

もの 海と山に囲まれる里の資源

こと 地域の中で行われる祭りや行事



ひと・もの・こと  
のつながりから生まれた  
「旧塩屋」の提案

ひと  
もの  
こと  
の  
つながり

「旧塩屋」を舞台に、面白そうなまちづくりが始まっていました。この高浜で、空き町屋を手づくり改修して人が集まって来る。こんな古くて新しい、そしてワクワクするような試みをもっともっと増えればいいなと思います。その内容を少しご紹介したいと思います。

## 旧塩屋という 具体例

塩屋という屋号の伝統的な町屋が高浜町のまちなか、旧丹後街道沿いに建っています。「売家」の看板があたり、「ここも取り壊されてしまうのかな」と寂しく感じていました。そんなある日、固く閉ざされていたドアが開放され、なにやらドタンバタンと音がします。「取り壊しですか」と訪ねると、笑顔の若者が「ちょっと、シンポジウムの会場にしようと思いましたが、きれいにしています」と。

## 動き出したまちなか

ひとの思いが集まり、旧塩屋を会場として活用することになったそうです。「まち中から郊外へ人が移り住み、空き屋が目立ってきて、七年祭など地域の行事も人集めが大変になってきた。こうした空き屋に若い人が住んでくれると嬉しいんだけどなあ。でも古民家は住み難いイメージがある。だから、この塩屋を使って、まず古民家の良さを知ってもらうことから始めようと思っています」と別の男性が説明してくれました。何か、まちなかの空気が動き出した気がしました。窓が開き、新鮮な潮風が家の中を駆けめぐる。やっぱり町も定期的に風を入れたいですね。

## プロセスを大切に

ものをいろいろ集めて展示する予定とのこと。魚や野菜などの食材、海と山の自然、七年祭や櫓龍、ひなまつりなど暮らしとつながる素材達。旧塩屋という舞台の中に、いろいろなまちづくりの資源を集めて展示するつもりだとか。

「バラバラにやっているように見える色々な取り組みも、結構つながっていることが多いんです。この旧塩屋もそのひとつですし、旧塩屋での展示を通じて、少しでも感じてもらえれば嬉しいです」とのこと。きっと、シンポジウムまでの期間、それぞれの方面でまちづくりをしていた人達が旧塩屋に入り込むことでしょう。そのプロセスがとても大切だと感じます。まちなかに新しい人の流れが生まれ、何かいい感じですね。

## 高浜生まれ 高浜育ち

「こと」（七年祭やひなまつりなど地域の祭りや行事）をもっと身近に、そして参加しやすい工夫を考えていきたいとのこと。

高浜もたくさんの方が移り住み、高浜生まれと高浜育ち（移住者）と、両者の新たな関係づくりが課題だと感じます。これからのまちづくりの役割は、きっとこの両方で、この2つが融合したコミュニティづくりが大切ですね。この旧塩屋を活用していくプロセスもそうしたコミュニティづくりの場になればと期待が膨らみます。

「高浜謹製」  
「高浜体験」  
「高浜暮らし」  
高浜の取り組みを3つの分類に分けて旧塩屋にて展示しています（下）



手づくり改修した旧塩屋

